

心無墨礙

題字 心無墨礙 揮毫 八幡浜教育会OB 大塚 昇 解説は3面



発行所
公益財団法人愛媛県教育会
〒790-8545
松山市祝谷町1丁目5-33
エスポワール愛媛文教会館内
電話 (089) 945-8644
FAX (089) 945-1459
E-mail info@ehime-kyouikukai.jp

今、思うこと



元 青少年赤十字
全国指導者協議会会長
藤井厚介

「集会を終えて退場していく子どもたちの、自信に満ちた誇らしげな後ろ姿を見て感動しました。」県下の中学校で最初の『青少年赤十字研究会』で、本社青少年課長が講演の初めに言った言葉である。私が青少年赤十字を取り入れた教育活動の有効性を確信した瞬間であった。

ことは、本当に心強かった。青少年赤十字と出会っておよそ三十八年になる。今も私を引きつけるのはなぜか。活動が続けることで、日々成長していく子どもたちの心に、やさしさや思いやりの気持ちが養われ、その変容を身近に感じることができたからである。心は見えないが、優しく思いやりにじみ出た言動から、子どもたちの心が育ってきていることも実感した。

- (2) 学校紹介 榎瑞小学校
 - (3) ふるさとに生きる
 - (4) 旅・たび
 - (6) 日連教長崎大会印象記
 - (8) ふるさとスケッチ
- ローカルトピックス

ていた男の子は、ある日驚いたことにみんなと一緒に当たりの様に作業をしていたこともあった。気づいて、考え行動したのであろう。

一人よがり以利己的な考えを持っていた私は、青少年赤十字を介して、いろいろの分野で活躍している人たちと知り合い、幅広く人脈ができたことで、一面だけでなく広い視野で違った角度から物事を観たり、考えたりすることの大切さを学んだ。

子どもたちに他を愛する気持ちを培い、教師に教育活動の活性化を図るための手だてと積極性を得ることができると青少年赤十字の『よさ』を知ってもらうことを、私のライフワークにしていきたいと思っている。

文化の目を前に、教育と文化について少し考えてみた▼学ぶことの意義については、藤沢周平の「たそがれ清兵衛」の有名な場面に集約されると思う。清兵衛は貧しい暮らしをやりくりして二人の娘を寺子屋に通わせている。この様子を見た本家の主人が「女に学問はいらぬ。お針の一つも習わせろ」と言う。それに対し、清兵衛は本家の主人が帰った後、娘たちに「学問はお針のように形あるものは残さな。しかし、物事を考えたり、判断したりするとき、役に立つ」と静かに諭す場面である▼時々、将来の生活に役に立たない勉強をなせしなくてはならないのかなどという論調を聞くことがある。しかし、人間が人間たるゆえんは、思考し、それを表現することにより、相互に交流できる力を持つているところにある▼そして、その力を高度に発展させ、文化を育み、今日の世界を創造してきた。学ぶことは深く考え、正しく判断し、豊かに表現するための唯一の手段である。「文化」という抽象を理解し、創造するために、再度教育の役割を確認し合いたいものである。

- 一略 歴一 (ふじい・こうすけ)
- 平成9年 今治市立乃万小学校長
- 平成11年 愛媛県青少年赤十字指導者協議会会長
- 平成13年 今治市立立花小学校長
- 平成14年 青少年赤十字全国指導者協議会会長
- 平成18年 今治市立立花小学校定年退職
- 平成18年 今治市教育委員会・社会教育指導員
- 平成24年 退職

響 ぶきょう 聞

ひとこと

今、幼稚園で



附属教育会 会長 川崎ひとみ

一学期の終業式の朝、登園するのを嫌がる二歳児がいた。終業式が済むと夏休みになって、大好きな幼稚園に来れなくなるから嫌だという。

二学期が始まり、五歳児は運動会の相談を始める。リレーをしよう、ソーラン節も踊りたい、運動場に飾る大きいプログラムをつくらうなど、次から次へとアイデアを出し合っている。

三歳児から五歳児までの幼児たちとの生活は、驚きと発見にあふれている。

幼児教育にあつては、「保育」という用語が使われる。それは、幼児たちが小学生以降の子どもたちとは異なる発達特性を有しており、特別な配慮が必要だと考えられているからである。保育には、保

護と教育や養育・育成などの観点が含まれるとされている。「保」は、幼子を産着にくるんで背負う様子を表したものである。子どもたちを大切に守り、慈しみながら、保育を展開することが必要である。

小学校や中学校等に先駆け、幼稚園では、平成三十年から、新幼稚園教育要領での保育が始まる。新要領では、子どもたちが高校を卒業するまでに身に付けておくべき力を見据え、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」が明らかにされている。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も示され、幼稚園教育と小学校教育のより一層の円滑な接続が求められている。「主体的・対話的で深い学び」は、幼稚園から高校までの共通テーマとされた。

幼稚園での学びが、子どもたちの豊かな未来を切り拓く質の高いものになるよう願う、この頃である。

(愛媛大学教育学部

附属幼稚園副園長)

学校紹介

No.133

西条市立禎瑞小学校

禎瑞 四季折々

禎瑞の春は「芝桜」。春の遠足では、土手一面色とりどりの芝桜を背に、入学したばかりの一年生と、ちよっぴりお兄さんお姉さんになった二年生がそろって写真撮影「はい、ポーズ。」目的地の難波公園では、名物の藤の花も香りはじめます。

禎瑞の夏は豊かな「うちぬき」水。冷たく清冽な地下水が校区の至る所に湧きだし、学校の周りの田圃と、登下校の子どもたちの渴いたのどを潤します。満面の水をたたえた青田を吹き抜ける風は、真夏でも天然のクーラーとなつて教室に流れ込みます。禎瑞の秋は「お川狩り」。

地域の名人に教わる投網も、六年生になれば、漁師さながらなかなか堂に入ったもの。江戸時代、西条のお殿様に献上するための魚を育てる「お留め川」を、年に一度だけ領民に「狩り放題」としたこの伝統行事を、本校の子どもたちが継承しています。

禎瑞の冬は「渡り鳥」。河口干潟の豊かな生物を求め、様々な野鳥たちがやって来ます。西条自然学校の先生方にレクチャーを受けながら、子どもたちは体験と探求の学習を重ねます。時には、野鳥観察の方の双眼鏡に映る珍しい鳥の姿を見せてもらったりしながら、子どもたちは禎瑞の自然の豊かさや自然環境保護の大切さを実感します。禎瑞小の子どもたちの熱心な学びは、平成二十八年十一月、環境省「全国野生生物保護実績発表大会」において、「日本鳥類保護連盟会長賞」という輝かしい賞をいただきました。

川と中山川の三角州を干拓してできた土地です。干拓当時は田園耕作地として困難な条件をたくさん抱えていましたが、客土、灌漑などが、客土、灌漑など、先人の並々ならぬ努力によって現在では県下有数の穀倉地帯となつています。

禎瑞小学校の創立は、明治八(一八七五)年。以来、ふるさと禎瑞の地域の方々に愛され、見守られ、豊かな自然に育まれながら子どもたちは学び続けています。

(教頭 塩出 光治)



禎瑞は江戸中期(一七八二年)、西条藩奉行、竹内立左衛門により、約五年の歳月と二万両の巨費を投じて、加茂

未来を担う“人”を育てるといふ社会的使命

東京書籍は「教育と文化を通じて人づくり」を存在意義と捉え、未来を担う子供たちの学びと成長のために、そしてその子供たちの学びと成長を支えておられる先生方のために、少しでもお役に立ちたいという気持ちで仕事に取り組んでいます。教科書づくり100年の歴史と伝統を継ぎ、「学ぶよろこびを いつでも どこでも だれにでも」のビジョンのもと、サポートの質を高め、深めることに努めています。

学ぶよろこびを いつでも どこでも だれにでも

東京書籍

本社 〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel:03-5390-7481 (営業総務本部)
 四国支社 〒532-0004 大阪市淀川区西宮原1-4-10 大阪東書ビル Tel:06-6397-1350
 ホームページ <https://www.tokyo-shoseki.co.jp> 東国Eネット <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

題字に寄せて

心無罣礙



八幡浜教育会OB 大塚 昇

「般若心経の智恵」より

「心無罣礙」とは、罣は引つかかることであり、礙はさまたげること、それに無がついていきますから心に障りがないうという意味です。

心に障りがなければ、迷いや善悪、生きるとか死ぬとかなどの意識により、心に束縛されることがなくなります。すなわち、とらわれる心がなくなれば、業のさまたげから解放されますから因果にとらわれることがなくなり、やすらぎの世界に生きていくことができますという教えです。

ふるさとに生きる

ふるさとへお返しを



井出 ひとみ 眸先生

訪問者

山本 英二 (今治市立近見中学校校長) 榎 祐子 (今治市立近見中学校教諭)

No. 93

身の置き場のない暑さに転がされていたところへ、颯爽とお越しくださった井出眸先生。明るく強いひとみをお持ちでいらっしゃいます。

一 地域のために

近見小・中を卒業。教職を退かれた後は近見中同窓会「潮さい会」を結成。民生児童委員を三十三年、人権擁護委員を二十二年(その内、会長を十年)、女性初の自治会長に至っては、今年で三十七年を数えるという、まさに地域の重鎮。出会いを大切にされながら、地域のために粉骨砕身努めておいでです。

四年前には、長年の無償の活動と功績によって瑞宝双光章の叙勲を受けられました。皇居の豊明殿での授章式。それにも増して、人権擁護委員会会長として出席した四国大会で「葉っぱのフレディ」朗読劇を上演したときの感動は大きかったと話されます。

二 書を通して

中学生の頃、故・織田子青先生に習い始めた書道は、「私にとって生涯学習」とおっしゃいます。現在は、書道教室の指導者や書神会本部審査員、書道展会員として多忙で極める中、月二回の研究会で研鑽を積んでおられるそうです。

近見中三期生の先生は、入学当時教鞭をとられていた織田子青先生に感化され、書に打ち込むようになったとか。時は流れて三十二年後、「近見中の三十五周年記念石碑を立てたい」一心で卒業生と一緒に資金集めに奔走くださったのも、既に書の大家となられた子青先生に、「碑に刻む校訓を書いてほしい」旨をお願いして快諾をいただいたのも、何もかも眸先生でないと成し得なかつたことでしょう。

さらには子青先生に「拭き掃除 掃き掃除 これができれば人は満点」という書もお願いでくださいました。その書は額装され、以来三十年に渡って、近見中の生徒や教員を無言で諭してくれています。

三 哲学 毎年、近見小・中学校の卒業生全員の卒業証書を書いてくださる先生。今年の二月も、例によってお願いにあがると、「あれ〇〇ちゃん、もう卒業? ついこの間、小学校の卒業証書を書いた気がするのにな。」といとおしそうな表情をされたのが印象的でした。

先生の字はしなやかでいて迷いのない強い軸があり、伸びやかでいて豊かな温度があり、お人柄のようで素敵です。今回、「いつもお祝いの気持ちで書かせてもらっている。」というお話をうかがい、ありがたくて胸が熱くなりました。

「大事に育ててもらったふるさとにお返しをしないとけない。」そんなひとすじのお気持ちで、「自分のもつていけるのちの時間を自分以外の誰かにも使う」という故・日野原重明先生の哲学を実践されていることに心打たれました。

井出眸先生。ただただ、眸皓歯でいらつしやいました。

井出 眸先生(81歳) (今治市近見町在住)



SEKI セキ株式会社 足跡をつづる、私を記す、形に残す。 本づくり応援 プロのスタッフが校正作業をサポートします! プロのデザイナーがデザイン力を発揮します!

特集 旅 たび

旅の思い出



四国中央教育会 OB 大西 澄子

歌人、佐藤佐太郎先生のお供をして中国を訪問した時、西安の碑林で、若い中国女性に日本語で話しかけられた。聞かれるままに住所を教えたいところ、日本のお母さんへという手紙と分厚い辞典が送られてきた。お札に華やかなブラウスを贈ったところ、それを着て新婚旅行にいったと返事があった。子どものいない私に母の心をプレゼントしてくれたのだ。

ている時、はじめて見かけた。笹ではなくて林檎を齧っていた。昼食に出された肉があっさりしておいしかったので、「これは鶏の笹身ですか」というと、「そこらに跳んでる蛙ですよ」と言われた。中国ではサラダのような生野菜は一度も出てこなかった。中国語は話せないが、紙に漢字を書いて結構通じた。学生時代の友達と北欧のフィンランド、スウェーデン、ノルウェー三国を訪ねた時は、国境に棒が一本立っているだけで自由に通れた。ピルベリーの生えた野原の中のレストランに狐の襟巻を売っていて、「ドルでは売らない。日本円なら売る」と言われて日本円の強さを感じた。オーストラリアを旅した時も南が上になった地図を買おうとし

たが、ドルを持っていかなかった。しかし店の人は、ドルより円の方が良いと喜んで売ってくれた。戦中戦後をみじめな思い出で生きてきた私は誇らしい気持ちになった。

八十歳になって、クロアチアを旅行した時は、新年歌会の召人、三枝昂之先生御夫妻と同行させていただいた。バスの運転手が近道だと言って通った道には、地雷注意のドクロマークが立てられ、戦火に破壊された家が並んでいた。ヨーロッパでは、イタリアの世界遺産の多さに驚き、ドイツでは何処の家も窓に花が飾られ、洗濯物は見られなかった。九十二歳になった今はゆつたりと祖国日本の旅を楽しみたいと思う。

私をとりこにする旅



新居浜教育会 OB 伊藤五十鈴

「トイレは青空トイレ」「ガタガタ道の土ほこり対策は、サンダグラスにマスク」「いろいろな蚊対策グッズを持参」なんて話すと「何でそんなと

ころがいいの?」と言われる。でも、雄大な自然やそこに住む人々、動物は魅力的である。今私は、アフリカや南米のとりこ。

写真やテレビでも、世界の絶景や珍しい生き物を見ることのできる。でも、感動が違うし、体験してわかることがいっぱいある。大自然の中を走ったり、餌を食べたりする動物の姿は、ワクワクして何時間だって見飽きない。ナミビアのロツジでは、水を飲みに来た象が水道管を踏みつぶして壊した。アフリカ象は近づくのは危険だといわれるが、ガイドさんに「耳が下がっているから、今は大丈夫」と言われ、近くで静かに写真を撮った。ピラニアは怖いというイメージだが、ブラジルのワニが泳ぐ川で牛肉を餌にピラニアを釣る。面白いように釣れる。その釣ったピラニアを、ワニや鳥、カワウソたちにお裾分けし、私たちも姿揚げ、そして、刺身で食べた。淡泊で美味しい。

七月一日、松山市立垣生中学校の正門から野球部やバスケットボール部、バレーボール部の生徒の後について歩き、県道二十二号を西へ約百メートルの信号を右折して約六百メートル進みました。住宅地と思っていたところ、道路を横断して左折すると材木工場などが現れ、知らない土地を歩くようなドキドキ感を味わいました。その間を南へ約三百メートル歩くと、重信川の川口大橋付近の土手近くに出ます。まだ水面は見えませんが、伊予灘の潮の香りを感じたような気がして、重信川の河口への初プチ旅行への期待がさらに高まりました。約四百メートル行くと、大勢の人が見えてきました。松山市西垣生町の海岸「今出ヶ浜」周辺の自然を守ろう



松山市垣生中 教諭 上堂 貴子

今出旅行

祝 受章おめでとうございます

◇瑞宝双光章(高齢者叙勲)

- 越智 萬様 88歳 元朝倉町立朝倉中学校長 今治市
- 玉井 慧様 88歳 元大洲市立大洲東中学校長 大洲市
- 井上 貴男様 88歳 元宇和島市立小池小学校校長 宇和島市

旅

かなあと考えています。



伊予教育会 OB 池内 睦夫

と、中学生三百二十九名が地域住民や小学生らと共に総勢六百名近く清掃に汗を流しました。この海岸清掃活動は、住民有志でつくる「今出ヶ浜潮騒を守る会」が、二〇〇一年から年二回開いていると聞いています。浜周辺には、松山市のレッドデータブックで準絶滅危惧となっているカニ「ハクセンシオマネキ」や海岸の砂地に生える葉が長楕円形のさじ形のイソマツ科「ハマサジ」があちこちに見られました。

松山市の南西に位置する垣生の里は、平安時代の学問の神様と呼ばれる菅原道真公が筑紫の大宰府に下る途中、この地を去る時、「今、出づ(今、ここを出るよ)」という言葉を残し、九州へ旅立ったと伝わっているそうです。近くの住吉神社には、明治三十五年三月二十五日建立の菅原道真公一千年記念碑がありました。二回目の海岸清掃活動は、十一月二十五日。台風シーズンが終わり、浜周辺に打ち上げられた物を拾いに参加すると思います。その折には、少し回り道をして、伊予絣の創始者、鍵谷カナさんゆかりの地、長楽寺にも行ってみよう

前、義務教育課長さんから「楽しんで研修をしてきてください。」とのご配慮ある励ましを頂き、そのお言葉を旅行団全員忠実に実践しました。現地の学校視察の感想は薄れましたが、この研修で覚えたワインの味は今も忘れないよう復習をしています。この機会を与えていただいた当時の関係者の方々に、今も感謝しています。

退職後、妻と二人で、その研修で訪れたベルサイユ宮殿等、いくつかの場所を含む旅に出かけ、景色、文化遺産、そして「味」を改めて堪能しました。

今後とも機会があれば大いに旅を楽しみ、その良さを満喫したいと思いますが、諸々の事情もあり、思うようにならないのが現実です。

さまざま一人旅から おもてなしの旅へ



大洲市教育会 OB 玉井 淳子

私は、学生時代から時刻表片手に気ままな一人旅をする



俳画・水墨画教室 和田 桂子作

のが好きでした。教員になってからも、長期休暇を利用しては、いろいろな旅を楽しみ全国制覇も目指していました。旅の楽しみは、各地の名所旧跡を訪ね、その土地の人と触れ合ったり、美味しいものと出会ったりすることです。三十代後半からは、海外の旅も楽しむようになり、アメリカやニュージーランド、韓国等に出かけました。特に、日韓交流基金の交流事業で訪れた韓国では、現地の方と親しくなり、毎年のようにその家族と韓国内を旅し異国の文化に触れることができました。

年會ついでいたお爺さんも数年前に亡くなり、お墓参りにも行ってきました。さて、退職したら、きままな一人旅の復活!!の予定でしたが、昨年「おおよず歴史華回廊認定案内人」として、おもてなしの旅をするようになりました。

全国各地から大洲に来てくださる観光客の皆さんに、臥龍山荘や大洲城等をご案内しながら、町歩きを楽しんでいます。大洲は、歴史に咲いた華を感じる素敵なお街です。一度「おおよず歴史華回廊の旅」に出かけてみませんか。

いよつ高島屋 ローズカードご入会のおすすめ



いよつ高 Takashimaya

組合員様は商品[※]を5%引きで購入いただけます。売り場率仕品、優待会、カタログ、通販販売の商品は2%引きのお支払です。

※1 (特別率仕品・生鲜食品等の割引対象商品を除く)

お問い合わせは

愛媛県学校生活協同組合連合会 電話(089)925-0555 または 郡市学校生活協同組合

お歳暮の期間中、「外商得意意様取りコーナー」にて推奨品に限り推奨価格(10%引き)で購入できます。

第69回日本連合教育会 研究大会長崎大会印象記



眼鏡橋 (長崎市)

◆第四分科会 (生徒指導)



小島台市長
松山市校
白石久美子

第四分科会では、「関わり合い認め合いながら、自己指導能力を育む生徒指導」を協議議題に、二つの提案発表と小グループでの協議が行われた。富山県教育会からは、「一人一人がかげがえのない存在として尊重される学級経営の在り方」手をつなぐ「学校・保護者・専門機関」について高岡市立千鳥丘小学校の取組が発表された。様々な困難を抱えた児童に対し、「校内協力体制の有効活用」「専門機関との連携」「学習は楽しいと感じる授業づくり」を通して、自己肯定感を高めたり、達成感を感じ取らせたり

することで、児童にたくさんの人に見守られている安心感を与え、そのことが児童を成長させている素晴らしい実践であった。

次に、長崎県教育会から、「自己有用感や自己肯定感を育む生徒指導の推進」出番・役割・承認をふまえた開発的「生徒指導」について、松浦市立御厨中学校の取組が発表された。生徒理解を確実にし、課題を明確にし、全教職員が共通理解を図った「開発的生徒指導」を実践しているというすばらしい取組であった。特に生徒理解では、各種アンケート調査の実施、教育相談の充実だけでなく、年二回の「QU調査」、講師を招いての分析など、徹底した取組であった。そして、生徒に活躍の場を与え、自分の役割を果たさせ、承認し励ます仕組みを確立させることで、自己有用感や自己肯定感を育んでおり、将来にわたって自己実現を図ることができると生徒が育っていると強く感じた。

その後のグループ討議では、発表された御厨中学校の先生と一緒にしたので、生徒の活躍の場、承認の方法など詳しく話していただくことができ大変参考になった。

◆第五分科会 (健康・安全教育)



小島台市長
今治市立論
清水美紀子

第五分科会では、「心身ともに健康で安全な生活の実践を目指す健康・安全教育」を研究協議議題に、二つの提案発表と、小グループでの協議が行われた。

徳島県教育会からは、「自分のよさを認識し、夢や希望に向かって主体的に学び豊かに表現できる児童の育成」をテーマに、阿南市立桑野小学校の取組が発表された。「人との出会い」が、健康安全教育につながるとして、保護者や地域・スクールカウンセラー・関係諸機関との連携に重点をおいた内容であった。中でも、すばらしいキアリアを

最後に、長崎県教育庁義務教育課児童生徒支援室の長池係長から、(1)自己有用感や自己肯定感を育成する生徒指導の在り方、(2)望ましい人間関係づくりの在り方、(3)児童生徒理解の深化と関係機関との連携について、発表内容と合わせながら指導助言いただいた。自校にも生かせることが多くあり、大変実りのある研修となった。

もつ人々との出会い(夢教室)や多様な交流活動(サンピア共和国支援等)は、児童が夢に向かって努力することのすばらしさを実感し、課題解決に向けてどう行動すべきかまで考えることができていた。意味ある他者(外部講師)との出会いは、理解したことを実践する意思をもたせるのに有効であると感じた。

長崎県教育会からは、「心身とも健康で、自立した生徒の育成を目指して」自己肯定感を育む教育活動の実践を通して「」をテーマに、「健康教育」について長崎県研究指定校を受けた対馬市立豊玉中学校の取組が発表された。教師の指導力向上のため、授業に「生徒指導の三機能」を意識して設定すること。毎日の生活チェックを入れた生活ノートを通して、家庭との細やかな連携を図ること。さらに、年三回の学校保健委員会を核とする、健康について地域も巻き込んで考える場の設定は、生徒が自分で考え、互いによさを認め合い、自己肯定感を高めさせる実践であり、確かな成果を上げていた。

グループ協議においても、多様な健康課題に対応する健康教育の在り方や基本的な生活習慣の確立のための手立てについて、各校の取組を紹介し合った。不登校や虐待、災

◆第六分科会 (人権教育・平和教育)



小島台市長
宇和島市主幹
山田真理

第六分科会では、「人権尊重の意識を高め、共に生きる態度を育む人権教育・平和教育」を研究協議議題に三つの提案とグループ協議がありました。

一つ目の提案は、茨城県銚田市立銚田北中学校の発表で、研究主題が「自分に誇りを持ち、人を大切にすると人権教育の在り方」生徒の自主的、実践的な態度を育む教育活動を通して「」でした。人権感覚の育成に重点を置き、「学習活動」「学校行事」「生徒会活動」「人権教育を支える環境整備」「地域との交流活動」の五つの活動において生徒自身が計画・実践するスポーツフェスティバル、「PRIDE」という生徒会活動、ハッピーバースデーコーナー等、創意工夫ある研究を

害など、関係機関との連携の在り方等も話し合い、互いに学びあうことができた。

心と体をつなぐこと、人をつなぐことが、家庭や地域に根ざした健康教育を行っていくうえで最も大切であると実感した分科会であった。

されていきました。

二つ目の提案は、長崎県長崎市立山里小学校の発表で、研究主題が「被爆体験を継承し、平和を願う児童の育成をめざして」直接的平和教育における平和学習を通して」でした。千三百人の子どもや先生が命を失っている被爆校であると聞き、驚きと共に胸が痛くなりました。それ故、『被爆体験の継承』を重点目標に、被爆に関する事実を理解し、被害者の思いに共感し、被爆の実相や自分の想いを伝えていこうとする児童の育成を「直接的平和教育」とし、七十年にわたる平和教育に取り組んでおられ、伝統的な研究をされていきました。

三つ目の提案は、長崎県長崎市立小島小学校の発表で、研究主題が「心豊かな学びが育む認め合う学校づくり」自己を伸ばし、仲間を認め、規律ある教育活動を通して」でした。生徒指導に多くを費やしてきた学校という実態から、研究組織を「コミュニケーション能力班」「学習規律班」「調査分析班」「資料収集班」の四つに編成し、研究主題を踏まえたアプローチをされています。その上で、共通理解を図る機会やPDCAサイクルをベースとした取組もされており、組織的な研究でした。

今回の研修では、これまでの自分に意識の薄かった「平和教育」について、被爆県である長崎で学ぶことができた。さだまさしさんの歌声とギターの音色の余韻に浸りつつ、平和について学んだ時間は、温かく有意義でした。研修を受けさせていただいたことに、感謝しています。

◇第九分科会 (小中連携)



中山津田 松山 渡部 公人 校長 校 長

研究協議題を「学びの連続性を重視した小中連携(小中一貫教育)の在り方」とし、三校の提案発表・協議、指導助言の流れで会が進行された。

提案一 山口県萩市立福栄小中学校からは、「ふるさとに思いを寄せる児童生徒の育成をめざして」と題して、小中一貫モデル校の実践から、九年間を一貫して貫くおぼれない軸を持つことが最も重要であると報告があった。その一つとして、九年間を見通したブランドデザインに基づき、小中の役割や連携を明確にし、**「ふくえ学習(総合的な学習の時間)」「地域で取り組まれてきた武道活動」「外国語活動・英語教育」**に取り組

んだ。その結果、児童生徒のふるさとに対する思いが強まっているとまとめられた。

提案二 長崎県西彼杵郡長与町立高田小学校が、「町全体で取り組む小中連携事業とおして」と題して、町内の小学校五校と中学校三校の連携した実践を発表した。八校の全職員が、目的や活動内容を具体的に示した「学力向上対策部」「ICT教育部」等の七つの部会いづれかに所属し、年間を通して活動している。これら部会の取組は共有され、特に、外国語活動の実践や児童生徒の情報共有で成果が顕著である。今後は、組織が町の実態や教育改革の状況等に柔軟に対応していくことが重要であるとまとめられた。

提案三 長崎県五島市立玉之浦中学校からは、「小中高連携による英語教育を通して」と題し、五島市の中学校英語



部会が学力向上を目指して、教材開発や授業改善に取り組んだ過程の中で、小学校や高校との連携が強まり、研修の機会が共有化されていると報告があった。また、五島市が平成二十六年から実施している小学校一年生からの英語教育により、中学校教員の小学校乗り入れや指導法を共有化するための研究会が実施され、英語力の向上につながったとの報告もされた。

その後のグループ協議では、積極的な意見交換がなされ、小中連携の意識の高さを強く感じるとともに、小中連携は九年間の教育活動の系統性と一貫性を明確にすること、教職員それぞれが果たすべき役割を認識して連携・協力することが重要だと実感した。

◇青年教師の会に参加して



小原 豊田 高広 市教諭 松山 教諭

青年教師の会では、「語ろう！私の『夢・憧れ・志』」こんな教師でありたい」をテーマに、実践発表やグループ協議が行われた。

まず、長崎県内の小中学校の先生方が、自校における実践を発表された。二名の先生とも、目の前の子どもを大切

にされ、学校を変えようという高い志をもって取り組まれている様子が伝わってきた。

次に、グループ協議では、小グループに分かれ、「夢・憧れ・志」について話し合った。どの先生方も、自分自身をしつかりと見つめ、様々な夢や志をもって仕事をされており、とてもよい刺激になった。

会に参加し、他県の先生方との交流を通して、教師としての仕事に対する姿勢、子どもとの関わり方など、様々なことを学ぶことができた。自分も高い志をもち、全力で子どもと向き合っていきたい。

お知らせ

◆寄贈図書

この度左記の図書をご寄贈いただきました。本館一階の図書室に置いていきますので、お手にとってお読みください。

『コーランの国から』
寄贈者 清水 昇氏



ふるさとスケッチ

No.405

ハマユウ



伊方町九町小 教頭 末光 礼子

ハマユウはヒガンバナ科の多年草で、佐田岬半島のあちらこちらに咲く花です。沢山の花が集まって大きな華やかな花になり、夏の厳しい暑さの中で元気に美しく咲きほころぶ姿を見ると、ふと立ち止ま



り心を休めることができず。かれんな花と相対してその葉は太く頑丈で、水不足の時は葉をたたみ、夕立がきて潤うと一まわり大きく太って勢い付きます。佐田岬の厳しい自然の中で生きてきた人々と重ね、私の愛する花です。

ご冥福をお祈りします

神田 信夫様	80歳	大洲市田口甲八四	29	9	3
日野 良二様	83歳	松山市小坂五丁目七七	29	9	7
佐藤 凱男様	78歳	西予市宇和町信里五	29	9	8
大森 敏子様	96歳	松山市久万ノ台四〇	29	9	13
福田 徹成様	90歳	新居浜市多喜浜四一五七六	29	9	15
三好 康照様	87歳	西予市宇和町加茂三六二	29	9	16
田中 普美様	90歳	宇和島市和霊東町二二二	29	9	17
成本 歳信様	92歳	伊予市双海町大久保甲一〇八〇二	29	9	19
高橋 保則様	81歳	伊予市下三谷三三五二	29	9	21
酒井 正康様	84歳	今治市常盤町八一三三	29	9	25
玉井 思様	89歳	今治市北日吉町二九一四	29	9	27

文教俳句

一俳句ポストより一

五月空詠りとび交うバスタワー
石鎚や稲田の上をつばめとぶ
潮風が鈴の音運ぶ夏通路
梅雨入りや菊門瓦の色濃くす
さよふりゆうの口にスッポリ春の雲
さるすべり雨に映ゆるや子規の街
文教の宿に集ひて蟬しぐれ
夏の旅余生いろいろクラス会
送り着く宿は文教汗ぬぐふ
夏旅や部屋もり上がる同窓会

内子町 小野植元幸
西条市 高橋 和
鶴ヶ島市 星野 順一
鶴ヶ島市 星野 久美子
愛南町 中道 壮太
今治市 中矢 尚子
松前町 池内由記子
姫路市 山根千恵子
明石市 橋本 節子
倉敷市 岡部 康子

ローカルトピックス

三間町の花踊り

三間町曾根地区の天満神社では、毎年九月一日、県無形民族文化財に指定されている「花踊り」が催されます。この踊りは高知県の西部から南予地方に渡って伝承されている太刀踊りの系統で、太刀・

戦国時代、土佐の長宗我部元親がこの地を侵略した際、どうしても歯長城を落とせなかつたそうです。元親は一計を企て、毎晩、土佐の名物である太刀踊りを家来に踊らせました。慰安の踊りと知ると、次第に見物する者が増え、農民たちも勧められるままに鎌を取って、共に踊り楽しむようになりました。

九月一日、境内で人々が踊っていたとき、顔を隠して



文教月報編集協力委員 田崎 智子 宇和島教育会

ぶんきょうの 忘年会・新年会

メニューもますます充実 ご予約は、皆様の会館

エスポワール 文教会館 ☎(089)945-8644 fax(089)932-0380

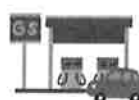
「エネオス」・「コスモ石油」がハンカード



全国のサービスステーションでご利用頂ける「エネオス」と「コスモ石油」のガソリンカードご利用代金は給与から引去りで便利!

お問い合わせは

愛媛県学校生活協同組合連合会 電話(089)925-0555 または 郡市学校生活協同組合 http://www.ehime-gakuseikyou.jp



毎月更新の給油価格は、愛媛県学校生活協HPにてご確認ください。